

学校評価

横浜徳風幼稚園自己評価公表シートについて

本園では平成28年度より、教師自らが客観的な目で自園の教育・保育を振り返り、主体的に改善に取り組むために課題を明確にすることを目的として、学校評価を実施、公表しています。

令和元年度横浜徳風幼稚園自己評価公表シート

1. 本園の教育目標

- ・学校教育法第22条及び第23条に従って幼児を保育し、適当な環境を与えてその心身の発達を助長することを目的とする。
- ・本園は、教育基本法、学校教育法及び子ども・子育て支援法その他の関係法令を遵守して運営する。
- ・本幼稚園は仏教情操教育に基づく生命尊重の教育を主に実践する。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領の五領域を踏まえて幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し幼稚園が今後担う役割について検討する。

・評価項目は『私立幼稚園の自己評価と解説』の自己評価項目の一部を参考とし、自園独自の項目も設定

・評価結果の表示方法・・・ A：十分達成されている B：概ね達成されている C：取り組まれているが十分でない D：取組が不十分である

3. 評価項目の達成及び取り組み状況と課題

	評価項目	結果	取り組み状況
1	保育の計画性	B	全教員が教育要領五領域と仏教に対する正しい知識を持ち、バランスのとれた教育を念頭に指導計画を立案できたと評価できる。学校行事に伴う無理のない指導計画が今後の課題だと考えている。
2	幼児への対応	B	園の方針である叱らずに褒めて伸ばす教育が徐々に浸透し、適切な言葉かけ、タイミングを考慮したアドバイス、分かりやすい笑顔の働きかけができた。全教員が高いレベルに並ぶことを当面の目標としたい。
3	教師としての 資質・能力・良識・適性	B	横浜市の処遇改善計画に則り待遇面での改善を図ったが、併せてキャリアアップ研修により寄り質の高い研修機会に多くの職員が参加した。本年はこの取り組みを更に加速させ、質の向上にあたりたい。
4	子育て支援や 預かり保育の 充実	A	平成27年度より子ども・子育て支援新制度における施設型給付の幼稚園に移行したことにより、保護者負担を軽減できたことで高い評価をいただいている。更に平成29年度より横浜市型預かり保育を導入し、また定着し、特に仕事をお持ちのご両親から高い評価をいただいた。
5	研修と研究	C	全国私立幼稚園連盟、全日本仏教保育協会、神奈川県、横浜市、浄土真宗門徒研修、等に積極的に参加できたことは評価できるが、振り返りや成果の発表など更に高い効果を生む取り組みを検討したい。
6	保護者への対応 地域社会との 関わり	B	幼稚園に求められる社会的なニーズも変化してきている中、取り組むべき課題について全教職員が共通に理解し、教員の発案で2歳児を預かれる「ぴよぴよ組」の運営が定着したことを評

			価したい。小学校への接続、ダウン症などの子供たちを受け入れたことは評価できるが、更に関係団体との連携も密にしたい。
7	安全教育と安全点検	B	園児の避難訓練、担当者による学校安全点検を適切にまた定期的実施し、横浜市消防局、神奈川県に対し報告している。また、園内防犯カメラを充実させることにより不審者の侵入にも備えるが、完全に外部侵入者を阻止するのは難しく課題も残る。今後は警察署との連携をどうするかを念頭に対策を練りたい。

4. 学校評価の具体的な目標や評価結果

子ども・子育て支援新制度における施設型給付の幼稚園に移行したことにより、本年度下半期より保育料及び横浜市型預かり保育料が無償になったことで保護者の安心感が広がった。更に地域との繋がりを大切に、未就園児保護者のニーズや子育ての不安解消にも応えていきたい。

5. 学校関係者の評価

令和元年5月22日の学校関係者評価委員会において、自己評価を公開し意見を求めたところ、特に指摘すべき事項はなく妥当であると認められた。特に、大きな怪我もなく教育が実践できていることを評価くださり、先生への慰労の言葉が多く伺った。全住職の入院と死去により実施を見送っていた周年記念式典を挙げてはいかかとの意見も聞かれた。

6. 財務状況

公認会計士により、適正であると認められている。